

政務活動費 視察・研修会等 報告書（創志会）

視察都市	長野県 東御市
視察日時	令和 3 年 11 月 01 日 (月) 13 時 00 分 ～ 14 時 30 分
参加者	人見武男 佐藤光好 園田基博 石渡宏明 北川久人 工藤英人
視察項目	重要伝統的建造物群「海野宿」の保存と振興について

東御市の概要（令和 3 年 10 月 1 日現在）:



- ・人口 29,721 人、世帯数 12,281 世帯、総面積 112.37 km²
- ・2004 年 4 月 1 日 小県郡東部町と北佐久郡北御牧村が合併をして発足。
- ・隣接自治体 上田市、小諸市、佐久市、北佐久郡立科町、吾妻郡嬭恋村
- ・市庁舎所在地 〒389-0592 長野県東御市県 281-2
<https://www.city.tomi.nagano.jp/category/koushikihp/index.html>
- ・市長 花岡利夫（2018 年 4 月～）
- ・市の木 胡桃（クルミ）



↑ 東御市 観光ガイドマップ



↑ 海野地域 歴史巡りマップ

■ 視察概要

1. 要旨

面談者：

- ・NPO 法人 海野宿トラスト 理事長 宮下 知茂 様

海野宿の概要（令和3年11月1日現在）：

- ・東御市を形成する5つの自治地区、田中(たなか)、滋野(しげの)、祢津(ねつ)、和(かのう)、北御牧(きたみまき)の中のひとつである、田中地区 本海野に所在。
- ・海野宿は海野氏の城下町として古くから集落を形成。本拠地として、また近辺の交通上、交易上の中心地として栄えていた。
- ・海野宿の伝統的建造物は、江戸時代から明治、大正、昭和初期に至るまでの、長い年月の間に建築されたもので、それらが時代ごとの特徴を持ちながらも、海野特有の伝統的形式を重んじた造りとなっている。江戸時代の建物としては、旅籠屋、庄屋住宅、長屋などが現存。
- ・その繁栄を支えてきた基礎には、農業による経済的基盤を持っていたことが挙げられる。養蚕・蚕種業の発展もその農業基盤の上に成立。
- ・海野宿は、農村の中に生活を続けてきたまちであり、農業と共に発展してきた地域であると言える。



↑ 海野宿 全景



↑ 日本の道 百選に



↑ 一軒毎にある個性



↑ 重伝建の表示



↑ かつての庄屋住宅



↑ 特徴のある「うだつ」造

海野宿の沿革（主なものを抜粋）:

- 1973年 東御市指定文化財に指定
- 1985年 海野宿保存審議委員会が発足
 - … 町並みを保存するか？ 調査対象 街道筋 141戸
 - （賛成 63%、どちらでもよい 23%、わからない 7%、不賛成 8%）
- 1986年 国土交通省（建設省）より「日本の道百選」に指定
- 1987年 海野宿保存会が発足。「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
- 1986年 海野宿保存憲章を制定
- 1989年 海野宿道路環境整備事業（4ヶ年）着手
- 1996年 長野県景観条例規定による、海野宿景観形成住民協定が認定
- 2012年 歴史的風致維持向上計画が文化庁・国交省・農林水産省に認定
- 2014年 街道の車道を脱色したアスファルトによる特別舗装化
- 2014年 滞在型交流施設「うんのわ」オープン

<https://tomikan.jp/area/tanaka-unno/unenoix/>

「うんのわ ～une noix～」とは、フランス語で市の特産「くるみ」の意味
 県・市外から派遣された、海野宿地域おこし協力隊のメンバーが運営中。

- 2014年 海野宿歴史民俗資料館、なつかしの玩具展示館、東御市海宿
 駐車場を指定管理化



↑ 市特産の「くるみ」



↑ うんのわ



↑ 街を細部まで知り尽くす宮下さん

**海野宿のこれから（海野宿保存会の懸念）:**

1. 「自分たちの祖先が長い年月の間に守り、育ててきた地域を、いまを生きる私たちが受け継ぎ、そして後世の人たちに伝えていかなければならない」。強い責務と情熱をもち続けていくことが必要。
2. その一方でいま現在、海野宿に住まわれる人々のために、「生活の場を第一」としながらも、これらの重要伝統的建造物を東御市の観光資源のひとつとしてより一層の活用を図っていくことが果たして適切であるのか？ … 難しい課題であると捉えている。
3. 伝統的家屋ゆへの保存の難しさ、日常生活での不便、維持管理に係る経費捻出等、固有の様々な事象が現在・次世代での課題となっていることについては、決して看過することができない。

4. 貸さない、壊さない、売らない、といった厳しいルール of 3拍子では、このさき立ち行かなくなってしまうことを何よりも懸念している。
5. 地域の方向性を以降どのように考え、取り組んでいけば良いのかを、しっかりと方向づけしていかなければならない。いつまでも継続できると甘えていれば、いつかは重伝建が朽ちている海野宿の風景を目にすることになりかねない。



↑ 海野宿の説明板



↑ 海野宿ふれあいセンターにて



↑ かつての旅籠屋

2. 行政視察 所感:

- ◎ 海野宿の成立過程についてこの機会をとおり、深く触れることができた。
 - 海野宿は北国街道の宿場町として端を発し、発展をしてきた。
 - その間「海野格子」や「うだつ」など特徴ある旅籠造の建物が街道沿いに多く建造され、地域独自の空間を創り上げてきた。
 - 明治期以降には宿場としての機能に移り代わり、養蚕・蚕種業が発展してきたことから、それまで宿泊施設として用いられてきた建物を蚕室に転用し、それらが現在にまで残る歴史的景観を構成してきている。
- 1970年以降に入り自治体や国からの文化財に選定されるに至り、海野宿では以降、道路や水路の改修事業や個別の伝統的建造物に関する修景・修理事業が実施されてきた、とのこと。
- ◎ 実際、白・茶色の壁を中心とした景観に辺りは包まれ、「海野格子」や「うだつ」などの特徴的な建築様式を持つ建造物群が、域内端に在する産土神の白鳥神社からスタートをして旧北国街道沿いに分布をしており、統一的な歴史的景観が現代にまで維持されていることが確認できた。
- ◎ 東御市の行政や観光協会は、これらのこうした歴史的な景観を市内における重要な観光資源として認識しており、2012年における「歴史的風致維持向上計画」では、歴史的景観を地域の資源とした観光振興とすることについて計画を策定。そうした流れの中で地域活性化を目的とする今回 NPO 法人が 2018 年に設立されたとのこと。

- ◎ こうした点から、海野宿においては行政や観光協会、更には地域の組織が一体となり、歴史的な景観の活用を指向してきた、と言える。
- ◎ しかしながら、商業施設含めた組織間の連携は個人的なネットワーク等を基礎とするに留まっている様子、辺り一帯を起点とした観光振興そのものについては停滞傾向にある様子であった。
- ◎ 敷地の内部で、例えば窓サッシ設置等の住宅改築が比較的自由に行われている点が散見されたが、原則として厳しい規制が敷かれていることは重伝建地区に指定されている以上かわりはなく、やはり不自由さが住民にあっては根強く残っているとのこと。
- ◎ 保存地区内の多くの世帯は構成員が3人以上とのこと。近隣地方都市に通勤を行い、居住の継続を指向している。尚、歴史的景観の維持については地域への愛着から賛成を示す住民がおり、2010年以降に修景・修理を実施した住宅が多いことも事実とのことであったが、説明の中にあつた「伝統的家屋ゆえの保存の難しさ、日常生活での不便、維持管理に係る経費捻出等、固有の様々な事象が現在・次世代での課題」として挙げられている点については、大いにその困難さについて同意を覚えるものであつた。
- ◎ 尚、訪問期間中、「天空の芸術祭」という芸術祭が海野宿域内で開催されていた。海野宿の風景を楽しみながら、どこかに設置のされた合計8体の作品を鑑賞する、という主旨のもの。彼らが何を考え、なぜそこにいるのか。鑑賞者に認識されることで、対話や繋がりを導き出そうとする、こうした新鋭芸術家の取り組みは、温故知新を手に入れる手法のひとつとして、また鑑賞者の好奇心をくすぐる仕掛けのひとつとして大変参考となった。



↑ 海野宿のあちこちにソッと展示された芸術品の数々。マンホールは海野宿柄に。



↑ 地域の産土神、白鳥神社。ここは木曾義仲の挙兵の地でもあります。

3. 視察成果による当局への提言または要望等：

海野宿は生活空間として依然として存続しており、歴史的景観の維持を重視しつつも、そこには「日常の暮らし」がまずあるということ、その点について、桐生市における重伝建地区にあつての大前提として大いに通ずるものを覚えた。

歴史的景観の維持に加えて、こうした取組みを地域活性化のための観光振興リソースとして活用指向していくのであれば、観光者や観光業者が経済的な利益を生むだけではなく、新たなコミュニティ創出などへの良い影響を与えうるという、地域が享受できるメリットが正しく周知され、広く受け止められているということが、まずはその第一歩であると考えている。

しかしながらその第一歩を踏み出す前の、最優先事項として捉えなければならないことは、地域の住民がいままさに現在、老朽化していく建造物の維持にあたり負担や困難を覚えている、という経済的・間接的な厳しい現実であり、次世代への保存活動そのものについても併せて、存続継承を危ぶんでいるという懸念・不安の想いに他ならない。

これら直近の大きな課題について、しっかりと目を向け取組み、喫緊のテーマとしてその解消を早期図っていかねばならないと考える。決して場当たりのものではない、本腰を入れての現状把握と、必要と判断する部分にあつては集中的投資を計画することも視野に、可及的速やかな対応を求めたい。



↑ 甘えていれば朽ちるのみとの警鐘。海野宿の域内には修景・修理中の住宅も。

次いで同時並行的な取組みとして必要なことに、市内全域と地域に暮らす人々の「意識の改革」について指摘をしたい。重伝建地区に関する正しい知識や理解を得ることをとおし、そこに暮らす人々に対する一種いわば「特別感」や「ステータス」、ひいては「羨望」、併せて地域に暮らす人々にあってはそこにあることに対する「誇り」や「矜持」の念を抱くことができる、そうした機運の醸成なくしては、市内全域の理解と協力を得ての地域の活性化に向けた第一歩は、決して成立しないと考える。

よりわかりやすい看板・説明板の設置や、舗装仕様の特殊差別化、色分け、往時を偲ばせるための電柱の地中化や域外移設等による、明らかな特別区としての「見える化」を図ることや、重伝建地区の成立過程に関する学校等での教育について、例えば「わたしたちの桐生」での記載内容の改定・充実化を図ることなどは、それらの理解と協力を得ていく上での契機に繋がるものと確信をする。鋭意の検討を願いたい。



↑ 電柱は域外に移設され、路面は石畳風の特殊仕様が施されている。

尚、上述の「前提」部が整ってから以降の次ステップとなる、地域活性化への具体的なアプローチに関する提言および要望については、次日程にて訪れた、高山市行政視察における次報告書において、提案を申し上げたい。

以上